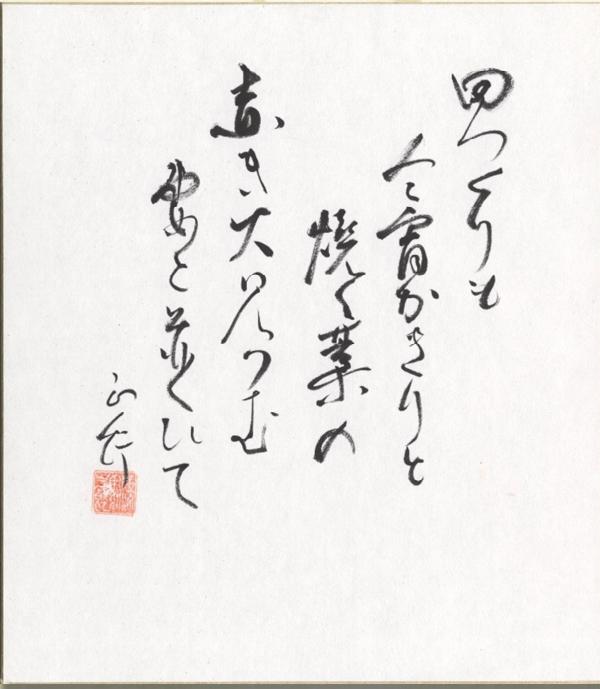


スポット企画展

# 新収蔵資料展

—中村雅之旧蔵資料を中心に



田つくりも今宵かきりと焼く藁の  
赤き火見つむ妻と並ひて

正行

令和7年12月10日(水)  
～令和8年2月23日(月)

(12月29日～1月3日は年末年始休館)

弘前市立郷土文学館

【開館時間】9:00～17:00 (入館は16:30まで)

【観覧料】一般100円、小・中学生50円

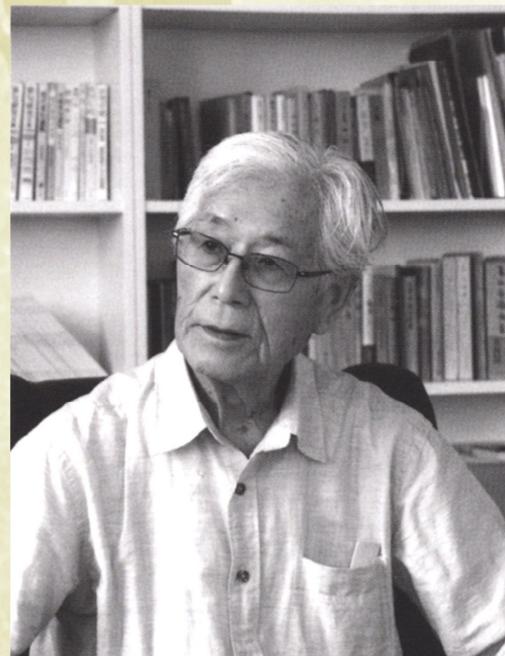
(弘前市内の65歳以上、市内の小・中学生、市内の留学生、市内外の障がいのある方、

ひろさき多子家族応援パスポート持参の方は無料)

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町2-1 (追手門広場内)

TEL 0172-37-5505

FAX 0172-36-8360



中村雅之「坂本忠一の短歌とその時代」(青森文芸出版 平成30年)より転載

中村雅之（本名・正行）は、昭和三年に津軽半島の寒村・車力村（現・つがる市）に生まれました。早くから農業にいそしみ、土とともに暮らしてきた日々が歌の根底にあります。昭和四十七年、江流馬三郎の筆名で発表した「縦走砂丘」五年、江流馬三郎の筆名で発表した「縦走砂丘」五首により、本県初の角川短歌賞を受賞。かけがえのない風土と人生を歌い続けた生涯でした。

本展は、令和七年二月に他界した歌人・中村雅之の旧蔵の直筆資料を中心に展示し、その知られざる一面を紹介するものです。



## 第一歌集『縱走砂丘』

文芸協会出版 昭和 49 年 10 月 1 日



## 第18回角川短歌賞記念品 櫃

◆書簡抜粋

私の拙い著書「坂本忠一の短歌とその時代」をお読み下され、お父さんの坂本文雄氏や和田静子さん、さらには赤城文治先生を想起され、思いを深くして下さったこと大変有難く思っています。それは、拙著「坂本忠一の短歌とその時代」にこめられた私のねがいでもあるからです。

敗戦の衝撃に打ちのめされ、苦難の戦後を生き、日々の苦しみや嘆きを歌に託して生きた人々の姿が、坂本忠一を中心としてよみがえることをひそかにねがっていたからです。



中村雅之書簡 坂本文範宛 平成 30 年 12 月 16 日  
個人蔵